

関西ふるさとこの会に 参加して

杉並区 内藤 實（本町六丁目出身）

昨年暮れ、梅田の雑踏を抜けて、弥生会館に上越出身の約三十名が集まりました。

私は、運営委員のひとりとして、東京より藤沢理事と参加させてもらいました。市役所からは野澤さんと栗本さんが遠路お越しになり、太田前会長も名古屋からお見えでした。

郷土より用意された岩の原ワイン・牧区のとぶろく・雪中梅で乾杯して、自己紹介や関西の生活談義に花が咲きました。ご多分に漏れず、還暦を過ぎた方々ばかりです。

オバチャン達が三分の一おられ、流暢な関西弁が飛び交い、すぐに皆さんは打解けました。一方、オジ（〜）チャン達の挨拶の中で、郷里を離れて直接に当地に来られたのではなく、東京で修業され、



関西に移られた方も何人かおられるのを知り、上越と関西の繋がりは東京より薄いだけに、苦勞もされた事と察しました。現在は安住の地として生活を謳歌して

おられ、いつでも古都を案内しようと思つてくださるお気持ちに感銘しました。人生二度出来るものなら、私も当地に住んでみたい気にさせられました。

太田前会長は小学校時代の女子同級生や、心斎橋で活躍されている郷土出身のママさんがおられたので、満悦でした。どこへ行つても前会長はモテマス。

再会を誓つて解散しましたが、更に喫茶で談笑して酔を覚ましつづ、上越にお帰りの市役所のお二人を玄関で見送り別れを惜しましました。

東京や名古屋にない歴史と庶民の味を感じた一日でした。

